

教職入門

概要

教育の重要性や教師の使命感、倫理観について学び、学力向上や問題行動に対する指導の進め方、学習意欲の向上等についてを、実践的に学ぶことによって教職の資質能力を高めることができる。

担当教員	土屋久美
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	食物栄養専攻1年 栄養教諭
時間数	90分 × 15回
単位数	2

目標

教育の重要性や教師の使命感、倫理観、学力向上や問題行動に対する指導の進め方、学習意欲の向上等について、実践的に学ぶことによって教職としての知識・スキル・意欲を習得する。

各回の内容

1. 学校教育と生涯学習
2. 教職の意義と教員の役割
3. 教員の職務内容
4. 進路選択のための情報収集
5. 学校評価
6. 教育相談のすすめ方
7. 不登校とその対応
8. いじめとその対応
9. 経営学級経営と教科
10. 学力向上の研究
11. 学習指導要領の役割
12. 分かる授業と評価
13. 分かる授業と教材研究
14. 求められる教員
15. まとめ

準備学習

関連ニュースおよび新聞記事に関心を持つ

評価方法

教科書の内容報告50%、模擬授業50%

教科書

秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣アルマ

参考文献

教育課程

概要

栄養教諭として必要な教育課程、教育方法、授業計画の立て方について理解し、授業運営や教育・指導に必要な、知識・技術などを学ぶ。栄養教諭の役割として、各学年、各教科で、どのような学習が行われているか把握し、校内の教員と連携しながら、教科・時間・行事の中に食教育をいかに取り入れていけるよう学ぶ。

担当教員	木下 ゆり
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	食物栄養専攻1年 栄養教諭
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

教育課程の意義と教育課程編成について理解する。食の指導に係る教育行政と教育課程を理解する。教科とその他の時間の特徴を知り、食の指導との関連性について理解する。個人・学級集団へのアプローチ、授業形態別のアプローチ、授業に必要な技術、情報機器・教材の活用方法について理解し、教育実践することができる。授業計画（指導案作成）、発表、評価を行うことができる。

各回の内容

1. 教育課程の意義
2. 教育目的・目標と教育課程編成
3. 教育課程の歴史
4. 学習指導要領（1）概要
5. 学習指導要領（2）小学校における各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動
6. 各教科・活動と連携した食の指導
7. 教育行政と教育課程
8. 教育の方法（1）個人、学級
9. 教育の方法（2）授業形態について
10. 教育の方法（3）授業に必要な技術について
11. 情報機器・教材の活用方法について
12. 授業計画（指導案作成）
13. 指導案の発表
14. 指導案の評価
15. まとめ
16. 期末試験

準備学習

授業で学んだ内容について、使用したプリントと教科書の該当箇所をよく読んで復習する。授業中に指示された課題について、各自で取り組み、次の授業に臨む。

評価方法

レポート提出20%、課題の発表20%、授業指導案の発表20%、期末試験40%によって総合的に評価する。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍（2014年発行）

参考文献

『食に関する指導の手引 第一次改訂版』文部科学省,東山書房,2013年

生徒指導

概要

3.11震災後の教育復興を念頭に置きつつ、これまでの生徒指導について、その課題とあり方について論じる。学校経営や学級経営、学級集団づくりを考えていく上で、学校、家庭、地域の連携に根ざしたものの見方、感じ方、考え方を養う。また栄養教諭としての資質である子どもの発達と家庭生活への対応についても深める。

担当教員	鈴木庸裕
授業形態	講義
学期	前期集中
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻1,2年 栄養教諭
時間数	15時間
単位数	1

目標

- ・子どもを理解を基本として、個性の伸長や自己指導能力の育成、「生き方の指導」について理解し、家庭や地域の諸状況を踏まえた学校における生徒指導の実際に対応する資質能力を高めることができる。
- ・生徒指導をめぐる今日的課題を実践的に学ぶことによって教職者としての資質能力を高めることができる。

各回の内容

1. 生徒指導をめぐる今日的課題
2. 生徒指導の理論と方法
3. 学級経営と学習
4. 子どもの学力保障と生徒指導の機能
5. いじめ問題へのアプローチ
6. 非行問題へのアプローチ
7. 不登校問題へのアプローチ
8. 家庭養育へ接近—生活習慣の問題から
9. 食をめぐる子ども理解
10. 学校が取り組む家庭支援
11. 学校における福祉の機能
12. 児童虐待と生徒指導
13. キャリア形成と生徒指導
14. 生徒指導を通じた生き方への援助
15. まとめ

準備学習

評価方法

参加状況50%、課題レポート50%

教科書

鈴木庸裕他著『教師のためのワークブック・子どもが笑顔になるスクールソーシャルワーク』かもがわ出版

参考文献

授業内で指示する